

CHAPTER 9 オフィス環境

- 01 ワークプレイス
- 02 NECソリューションイノベータのオフィス
- 03 Learning PATIO

オフィス環境における現状と課題

拠点ごとに、什器の改善を進めるとともに、出社時のコミュニケーションを円滑にするためのスペースの設置などを進めています。今後は、リアルなコミュニケーションを活用した共創の仕掛けづくりを引き続き推進していく必要があります。

01 ワークプレイス

シーンに合わせて選べる 多様なワークプレイス

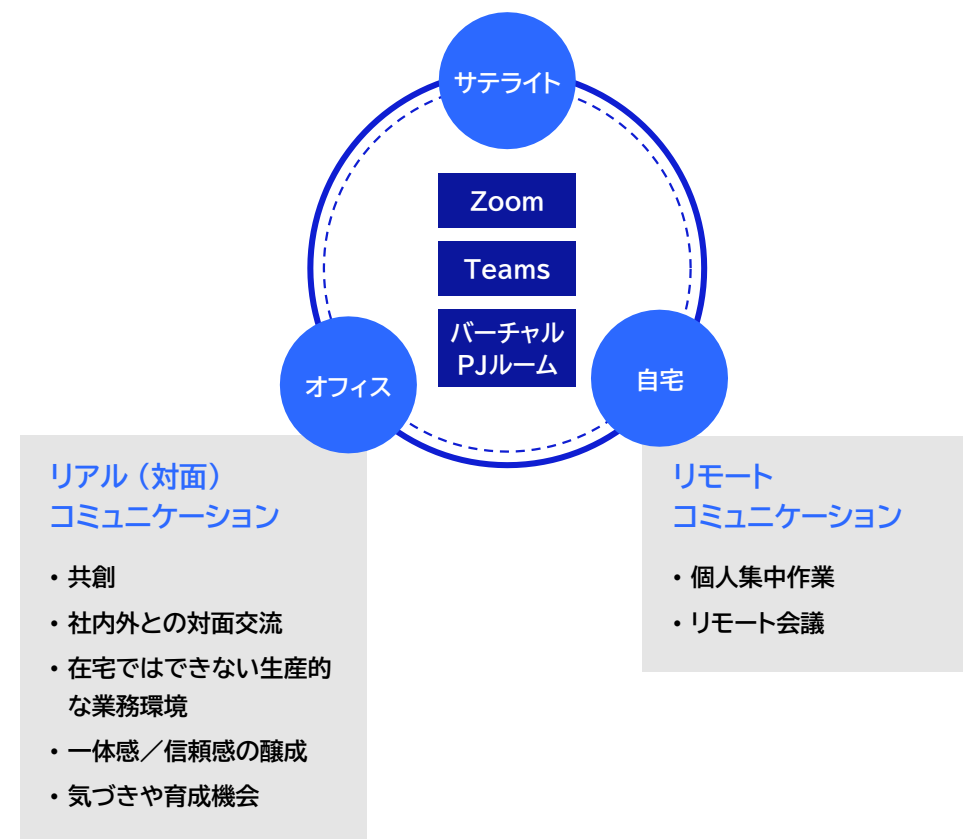
働く場所が多様化する中、オフィスは“集う場”として入社時のメンバー間のコミュニケーションを促進し、「リアル」と「リモート」をつなぐ場と定義しました。オフィスは2つの類型で構成されており、1つは「コミュニケーション・ハブ」、もう1つは「イノベーション・ハブ」です。

「コミュニケーション・ハブ」は、チームによるオープンで活発なコミュニケーションにより、ベクトル合わせと信頼関係構築を行う場です。一方、「イノベーション・ハブ」は誰でも使え、外の人を招きたくするような、組織の垣根を越えて使いたくなる場です。実際のオフィス設計には、その日の業務やシーンに応じてオフィス内の多様なアクティビティを自由に選択するABW(Activity Based Working)の概念を取り入れています。

現在の出勤率は約3割弱です。職場ごとに状況は異なるため、全社一律の目標は設定していません。日々の出勤率はイントラネットで確認できます。

なお、当社には服装に関する規定がなく、ドレスコードフリーとしており、働く時間と場所の自律的なデザインとともに、その日の働き方にフィットする服装を社員それぞれが選択しています。

■ワークプレイスの多様化



02 NECソリューションイノベータのオフィス

新たな働き方を支えるオフィス変革

オフィスを「集う場所」として再定義し、「出社時のメンバー間のコミュニケーション」や「リアルとリモートをつなぐ場」に適した働き方ができるようにするという方向性を見出しました。

現在会社全体で、オフィスのリニューアルに取り組んでおり、2024年度は新潟センター・静岡センターについて完了しました。ほかの拠点についても順次対応をしていきます。

またリニューアル完了後も、働き方の変化に合わせて随時見直しを行っていく予定です。



03 Learning PATIO

学びのために デザインされた空間

新たな学びの場として、2024年2月に「Learning-PATIO」をオープンしました。本社の11階が、4つの部屋と広々としたイベントスペースに生まれ変わりました。

Learning-PATIOに入ると、見晴らしの良い空間が広がります。「Open area」と呼ばれる中央のメインスペースには、様々な講演やイベントに対応できるよう、大型スクリーンとステージを設置。部屋のどこにいてもステージを望めるように、椅子は中心から徐々に高くなっていく工夫が施されています。

中央エリアを囲むように設けられた4つの部屋には、グループワークやワークショップなど、シーンに応じて柔軟に対応できるよう、利用者が自在に移動できる1人用のテーブルと椅子を設置。自由なレイアウトで活用されています。

ステージと反対側にある壁には「心と目にした情報から学んでいく」をコンセプトにした「Passive zone」というエリアがあります。会社からのメッセージ発信に加え、設置されたアクリルボードに新入社員が学んだことや研修チームで立てた将来へのビジョン、目標などを掲示し、次の世代へ紡いでいきます。それは次の新入社員たちへのメッセージになると同時に、ベテラン社員がフレッシュな気持ちに戻れる場として機能しています。

■Learning-PATIOのコンセプト

